

令和6年度 生物資源産業学部学生と学部長・専攻長等との懇談会 要旨

日 時 令和6年12月2日（月）16：30～17：30

会 場 地域創生・国際交流会館5階 フューチャーセンター

出席者 別紙のとおり

はじめに、服部学部長より本懇談会開催にあたり挨拶があり、教員自己紹介、学生自己紹介、その後は、学生に対して行った事前アンケートを基に、参加学生から意見を伺い、教員が回答する形を取った。意見・回答は次のとおりである。

授業・実習及びカリキュラムについて

学 生：成績評価について、GPAが学部全体で出るが、コース単位で分布を出せないか。研究室を検討するときなどに、自分の位置を知りたい。コースごとに履修する授業や内容、成績評価も変わってくるので、コースごとのほうがより分かりやすいのでは。

教務委員長：対応を検討したい。

各コース長：・意見は聞いたことがある。そのほうが何かと考えやすいと思う。

・GPAはコースごとに採点など大分異なる。生物生産が一番低い。応用生命は広く分布するが、生物生産は固まるのでかなり参考にしにくい。食料科学と応用生命が高い状況。見方によっては生物生産が魅力ないように見えてしまう可能性が高いと個人的に思う。

事 務：システムの現状出せない状況と思われる。時間はかかるが、システム面について意見をあげ、検討を進めることになろうかと思う。

授業以外の大学生活について

学 生：食堂メニューについて、ライスのサイズ表記を見直してほしい。SMLが発音しにくく、聞きとりにくいいため、間違ったことがある。生協メニューとして統一されているから変えられないということだが、注文するときだけでも小中大と言えるとうれしい。

学 部 長：個人的にはご飯のところにSMLでも小中大でもカードとかが用意されていて指さすとわかりやすいだろう。そのぐらいなら生協にお願いできるかと。年齢上がると聞き取りづらくはなると思う。

学 生：図書館の利用時間が短い。部活が21時に終わるので24時まで使えたらありがたい。駐輪場も整理してほしい。試験期間は特に利用者が多く、指定場所に置けず、通路にも置いてある。

事 務：利用時間について、繁忙期とそうでないときとで違うが、現状は21時ぐらいまで。勤務形態とか深夜帯もかかわるので、図書館が対応してくれるかはわからないが、要望は上げられる。

駐輪場について、不便なことはわかるが、図書館前以外にも駐輪場があるので、分散して使っていただきたい。キャンパスの広さに限りがあること、見回りは難しいことなどをご理解いただけたらと思う。そのうえで、要望があったことは上げたい。

教員との交流について

学 部 長：概ね教員と交流ができているという意見が多いが、全体的にみると、応用生命と食料科学は意見が多かったが、生物生産は少なかったように思う。教員との交流で良かった点や足りなかった点など何か考えはあるか。

学 生：特に問題は感じてない。半期に一度担任との面談の機会もあり、補助的にメールでのやり取りもできている。

学 部 長：教員とのコミュニケーションは大事なことです。連絡取れないこともあり、そのときはとても心配になる。皆さんも誰かが教員とうまくいってないように見えたら、教えてほしい。今回のアンケートではメールでやり取りできているとか、声掛けしてくれるとかの意見があったのは良いこと。

今後の進路について

学 生：悩んでいるのが、進学か就職か。進学したことで就活にメリットがあるか聞きたい。

コ ー ス長：・今日も90分で就職の話をしたところ。メリットはあるが、企業にもよる。昆虫の研究したいという方針あって、グリラスの心配とかもあっただろう。そこに影響されず、自分で選択してほしい。教員は誰でも相談したら、方向性など話してくれる。最後は自分で決めること。

・進学の意味はある。同じ会社でも職種の違い、研究職もあれば、営業職も。研究職なら意味ある。最近、就活が早い時期からあり、研究の時間が取れない学生も。教員側の悩みどころでもある。進学して研究できなければ、意味がない。何をやりたいか。研究したいなら進学すべき。ずるずる就活すると進学した意義がわからなくなるので、その点考えながら就活してほしい。

学 生：就職先を見据えてから考えるべきと感じた。個人的だが、高卒して3年後に大学に入学。新卒年齢も就活に影響するのかが心配。将来のライフプランを考えたとき、就活や人生へその2年がどう影響するか迷いがある。

コ ー ス長：企業の就職担当をしていた経験から。30までは一緒。まったく関係なく見てくれる。かえって、いろいろ経験しているというところで、色んな質問が来ると思うが、そのときに幅広い答え方ができれば採用したいと思う。途中で合わないと思って転職するのも今は当たり前。3割ぐらいは辞めている。年齢は気にしなくていい。

学 生：キャリア教育として、生物資源としてやってほしい。先生方で中澤先生、森松先生、三戸先生は起業と縁があると思うが、大企業、公務員で安定なのか、やりたいことをするのか、軸探しを何かしら手伝ってほしい。そういう機会があるとありがたい。自分も軸がわかっていない。

学生委員長：キャリア支援室の部門長をやっているの、その視点から。キャリア支援室では、キャリアコーディネーターという専門スタッフがいる。キャリア形成をどうしたいか、向き不向きの面談ができるのでぜひ利用してほしい。利用率が少なく、就活がある程度進んでうまくいくなってから来るケースが多いが、もっと早めに来てもらえると、いろいろなサポートができる体制を整えている。

あと、共同研究関係だが、いろんな企業があり、大手、中小と考え方は様々なので、研究室に所属しているのであれば、その先生方と一緒に研究している企業の人と話してみたり、自分はOBに対し就職して何年かしたら共同研究をもってくるよう話しており、そういった子たちの話を聞かせてもらったりすると、キャリア形成などに参考になるので、そういうのも、指導教員にお願いして、先輩たちと話す機会をつくってもらおうとよい。

学 生：資料27ページの通し番号7番に書かれてある生物の卒業生がどこに就職したかが分かるまとめ表を拝見したことがあるが、企業名はわかるが、職種がわからないので、実際何をしているかを知りたいので、どこのどの部門とか職種も書いていただけるとありがたい。

学 部 長：キャリア支援室にまとめ表があるということだが、そういうレベルでわかるか。

学生委員長：就職した会社名、職種について、研究室からキャリア支援室に回答しているので、情報はいつているはずであるが、一覧にまとめたときに反映されていない可能性がある。キャリア支援室に確認し、出せるなら、反映するようにしておく。

コ ー ス長：企業の場合、適性をみるため、採用されて2年はどこの部門にも基本的には所属しない。研究職、一般職でもフリーに動ける。向き不向きをみる。採用時の職種はあてにならない。研究室の先生に聞いた方が知っているかもしれない。部門のローテーションもあり、同じ部門

にずっといるというのは基本的でない。営業しかできない、研究しかできない人になる。

博士前期・博士後期課程のイメージについて

学 生：大学院試験がTOEICになるということを聞いた。確定はいつ頃なのか。

入試委員長：公表されていないことはお話できないが、決まったら、できるだけ早く確定して公表する。すべての先生の意見を聞きながら検討している。確定次第、すぐにHPに上げるので確認してほしい。

学 生：4月から進学するが、先輩をみると、授業と研究の両立が大変そう。しないといけないのはわかっているが、両立するためのコツみたいなものはあるか。

学 部 長：(出席している大学院生に対して) 実際にどんな風に思っているのか。こんな工夫をしているとか。

学 生：・できるだけコマを同じ曜日に集めて、ほかの曜日は実験できるように工夫している。計画的にスケジュールを立てることも大事。

・授業を決めるにあたって計画的に行う。計画を立てるのは研究にも生かせる。TAとかもあり、就活もかかわってくる。

学 部 長：教員側では、実験計画をどう立てるかは、学生とも相談しながら、授業の取り方も相談しながら、実験計画を計画的に立てる。まだ始まっていないので不安だろうが、きっと大丈夫でやっていけると思う。

学 生：今の質問に対する意見として、理工では早期履修があり、ある一定の成績を取得して、進学したい人は学部4年の段階で大学院の授業を受講できる制度がある。そういうのが生物資源でもあれば、ゆとりもできるかと思う。今後、そういった制度ができる予定はあるのか。

教務委員長：現状は難しい。早期卒業の仕組みはあるが。

事 務：理工とはポリシーも教育課程も異なるので、そういうのも影響しているかもしれない。これまで議論されたかどうかは不明。教務委員会で検討できれば。

スクールバスについて

学 部 長：スクールバスについて、学生の意見を聞いてみたい。現実問題として、生物生産が該当すると思うので、特に考えを教えてほしい。バスは無料、有料あるだろうが、どう思うか。

学 生：車の購入、維持費とか、現実問題として購入できないと、公共交通を利用することになり研究室に通うことに実費が発生する。時間だけでなく実費が発生しているということで、同じ学部なのに金銭の差があることに思うところがある。無料を想定している。

学 部 長：仮に有料だったとしたらどうか。

学 生：今石井キャンパスに通っていて、車を親に用意してもらった。8月までは自転車と自動車を使っていて、それにもお金がかかっていたので、時間にもよるが、使いたい時間にバスがあれば、有料でも乗っていたかもしれない。

学 部 長：有料だとどこまで許せるとかあるか。

学 生：昨年も話したときに、理工の医光/医工融合プログラムであれば蔵本で実習があったり、蔵本学生も常三島との行き来があったりするので、それも巻き込んで、ニーズの規模を拡大したら導入の理由になるのでは。たぶん、難しいだろうが。

学 部 長：正直本日の段階ではお答えできない。全体に広げて賛同者を得ることは大事。

学 部 長：8人乗りのノルートというバスがある。今は狭い範囲での乗り合いタクシーのようなもの。もっと範囲が拡大したら、そういうものでも乗るかどうか。候補の中に入るところでよいだろうと思う。個人的には、もし、石井と常三島間に通れば、鳴門や新野も含めてバランスが大事かなと思う。

その後、服部学部長から挨拶があり、閉会とした。